

令和7年度 第2回
函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和8年2月25日（水）14時30分～16時00分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	<p>(1) 報告事項</p> <p>① 令和7年度 事業報告</p> <p>② 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和7年度下半期）</p> <p>③ 史跡垣ノ島遺跡の保存活用計画について</p> <p>④ 令和8年度 事業計画</p> <p>(2) その他</p>
出席委員	<p>熊谷 儀一 会長 佐藤 安浩 副会長 竹内 正幸 委員</p> <p>大宮トシ子 委員 山田 貴久 委員 谷口 諭 委員</p> <p>菅原 学 委員 三浦 信一 委員 西田 俊一 委員</p> <p>佐々木孝比古 委員</p> <p style="text-align: right;">(計10名)</p>
欠席委員	<p>三浦 孝史 委員 鈴木 健二 委員</p> <p style="text-align: right;">(計2名)</p>
事務局	<p>教育委員会</p> <p>生涯学習部次長 宮田 至</p> <p>文化財課長 木村 元子 文化財課主査 野村 祐一</p> <p>文化財課主査 吉田 力 文化財課主任主事 横岡 歩</p> <p>文化財課主事 藤田 真由</p> <p>南茅部支所</p> <p>支所長 川口 洋</p> <p>地域振興課長 宮越 忠</p> <p>産業建設課長 加我 明夫</p> <p style="text-align: right;">(計9名)</p>

1 開 会

(事務局)	開会
-------	----

2 挨 拶

(生涯学習部次長)	開催挨拶
-----------	------

3 出席者紹介

(事務局)	協議会委員および事務局紹介
-------	---------------

4 議 事

議長あいさつ

(議長)	みなさん、お疲れ様です。先日2月18日にこの場所で南茅部高校の生徒たちの活動報告、阿部千春氏の講演会があった。当日は協議会委員の中にも出席された方もいたかと思う。大変参考になった講演会だったので参考にしながら、本日は次第に沿って進めて参りますので皆様から貴重なご意見いただければと思っている。よろしく願います。
------	---

(1) 報告事項

① 令和7年度 事業報告 (1)保存活用)

(議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料1)「令和7年度 事業報告」(1)保存活用)説明
(議長)	道路標識の看板について、形はどのようなタイプになるのか。
(事務局) 野村主査	新規につけるのか既存のものにつけるのかで、形が変わってくるかと思うが、大きな四角い青看板の南茅部方面のところは縄文遺跡群、世界遺産の文言が付ければいいのかというのがある。それ以外では横長の看板に世界遺産のロゴマークと大船遺跡、垣ノ島遺跡と印字し、遺跡の方向に矢印がついているものの大きくは2種類に分かれるかと思う。そういったものを検討している。
(議長)	承知しました。ありがとうございます。

① 令和7年度 事業報告 (2)普及啓発)

(議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料1)「令和7年度 事業報告」(2)普及啓発)説明
(山田委員)	いま説明のあった啓発活動の中には出てきてなかったところだが、垣ノ島遺跡に、スマホを使ったVRを体験するシステムを設置して運用されていると思うが、事業費、それに対するクオリティ、そしてお客様の利用状況、満足度はどういう状態になっているのか。
(事務局) 木村課長	垣ノ島遺跡のデジタルコンテンツは、初期費用として、いま正確な数字はお答えできないが2千万円程度の規模で作成している。あとは月額使用料として11万円かかっている。垣ノ島遺跡は立体復元をしておらず地形の復元だけなので、どういう風に堅穴住居が建っていたのか、縄文の人たちがどういう生活を送っていたのか等ビジュアルで理解しにくい部分があるため、それを補完

	<p>するためAR技術VR技術を使い仮想体験ができることと併せて、海外からのお客様、多言語対応として外国語の解説も入れられるようなもので開発したものになっている。</p> <p>毎月の利用者数については、アプリのダウンロードやアクセス回数、アクセス解析の数字を押さえているが、まだ利用がそこまで伸びていない状況である。</p> <p>縄文文化交流センターでもお知らせの貼り紙をするなど周知に努めているが、遺跡のなかでは、アプリを使用するための回線の速度が少し弱いところがあり、これから改善すべきところと捉えているところである。併せて周知のほうも図り一層の利用がされるように努めていきたいと考えている。</p>
(山田委員)	<p>月額使用料が発生している中でアプリの内容をアップデートしていくことは可能なのか。</p>
(事務局) 木村課長	<p>技術的には可能である。しかし見積もりをとったところ多額の経費がかかるため、まずは今のものを多く使っていただけるような取り組みを進めていくのが先なのかと考えている。</p>
(山田委員)	<p>遺跡の価値や縄文文化を伝えるツールとして活用しているのであれば、利用者にとって、面白いもの、すごいものと認識されればそこから口コミが広がっていくので、大丈夫なのではないかと思われる。</p>
(議長)	<p>スマホの活用、タブレットの関係を説明していただいたが、私も過去にタブレットを使用し、実際に目の前で体験できるということは素晴らしいことだと思ったので、いま山田委員からあったように新しい機材を活用して縄文をPRしていただきたい。</p> <p>次に私のほうから2・3点質問したい。</p> <p>まず縄文まつりについて、今回の縄文まつりでは、熊が散見され急遽この南茅部総合センター内と前の駐車場に会場が変更となった。このことについて来場者からいろいろな話を伺っていると思うが、当時の状況等をお知らせいただきたい。</p>
(佐藤委員)	<p>縄文まつりについて、会長からお話があった通り、ヒグマが縄文文化交流センター前の道路を横断したという状況であった。実施するには不安があったので皆さんに相談したうえで会場を南茅部総合センターへ変更した。</p> <p>会場が南茅部の中心部ということもあり、来場者は子どもも多く、体験ブースを利用される方も多かった。体験ブースでは、例えば勾玉体験の利用者が多く、全体的に、体験利用者は多かった。体験数により景品を渡していたが、大変好評で、多くの人が景品を受け取っていた。</p> <p>ステージイベントでは、太鼓のひのき屋さんにライブ演奏をしていただいたが、ステージがこの講堂の中、室内ということもあり、音をあまり大きくできなかつたため、残念だったという話があった。あれだけの規模の太鼓の演奏であれば、ぜひ今年は垣ノ島遺跡で縄文まつりを実施したいと思っている。ただ最初から最</p>

	後まで人が来ており、来場者数は前年並みには来ていただいたとは思っている。概ね来場者には好評だったと思っている。
(議長)	はい、ありがとうございます。 札幌の縄文雪まつりでは、中空土偶（レプリカ）が展示されたが、このことについても来場者から何か話があれば、お知らせいただきたい。
(事務局) 野村主査	縄文雪まつりでは、函館市はブースを出展し、中空土偶のレプリカの展示をおこなった。さっぽろ雪まつりの期間であったため、来場者は観光客が多かったという感触があった。2日目は平日、月曜日だったので地元の方も多かった。 函館市ブースでは、カックウクイズを実施したが、展示してある中空土偶のレプリカとその横に設置した紹介パネルを読み解いていくとクイズが答えられるというものなので、クイズ用紙を渡したら、必ずレプリカを見に行ってもらい、観察してもらおうという流れだったので、じっくりとカックウをみてもらえたと思っている。 また縄文文化交流センターには今回初めてブースを出していただいた。去年までは函館スイーツ協議会にブースを出していただいていたが今年は難しいということで、代わりに縄文文化交流センターから縄文グッズ、スイーツを販売し、結構な売り上げがあったということであった。 それ以外でも札幌や近郊のいろいろな縄文グッズを作っている団体も出店し、もともと縄文が好きな人が集まっているイベントだったので結構な売り上げがあったと聞いている。 先ほど紹介したカックウつみ、クラフトについても、自分で紙を積み上げていくと、かなり精巧なミニチュアができ、アクリルスタンド付きなのでディスプレイもできるということでもかなり多くの方に興味を持ってもらったと思われる。 全体的にお客様が途切れることがなく、来場者は1万2千人以上ということで、縄文の価値と魅力を発信するにはかなりいいイベントだったなというふうに体感した。
(佐藤委員)	今の話に関連して、さっぽろ雪まつりの大雪像の引き渡し式というのが雪まつりの開催前にあった。その引き渡し式の映像を編集し、10分程度の動画を作った。見ることのない機会なので、皆さんにも見ていただくような形にし、それを縄文文化交流センターで放映したいと考えているので、ぜひ来館していただきたい。放映時期は未定だが近々を予定している。 また縄文雪まつりでの物販について、思いのほかミュージアムグッズなどの商品が売れた。ただ札幌に持っていくのは大変ではあるがこういう機会があれば協力していきたいと思っている。
(議長)	引き渡し式の映像については、いまここで見られないのですね。皆さん縄文文化交流センターへ足を運んでいただけたらと思う。 最後に、福岡フォーラムについて、九州に行き啓発を行ったことについての福岡の人たちの反響などを教えていただきたい。

<p>(事務局) 野村主査</p>	<p>福岡フォーラムでは、チラシにもあるように縄文&神宿る島「宗像・沖ノ島」と、世界遺産のコラボというような形で開催したものである。縄文時代は、東日本、北海道から長野県くらいまでに多くあるが、西日本はそれ以降の古墳時代や弥生時代などである。そういった中でアイコンックな形で土偶というのはかなり興味を持って見ていただいた。函館市ブースはパンフレットしか置いていなかったが、青森の世界遺産本部からは、本物の土器や石器、秋田県の土偶のレプリカなどを展示し、それを来場者に触らせる体験をおこなった。</p> <p>土偶について子どもたちからは、教科書やアニメで見たことがあるという反応であった。異文化とは言わないが先史文化に対し、沖ノ島のほうでは鏡などの出土品の展示、実際に触れる体験のほかVR体験もあった。そういったところで北海道・北東北と九州と遠くではあるが、同じ日本の歴史の中の古い部分と新しい部分を体験できるフォーラムもしくは学び体験であったと思う。</p>
<p>(議長)</p>	<p>地元をはじめ九州の方まで啓発活動をありがとうございます。活用協議会としても、ただ会議で説明を受け、質問や意見を述べるという形でいいのかと思っている。可能であれば我々も色々なことを参画し、参画した体験をこのような場でそれぞれ発表できたらいいなという思いがある。</p> <p>そのほか、事業報告全体を通して質問や確認等はあるか。</p>
<p>(事務局) 木村課長</p>	<p>事務局から一点訂正をさせていただきたい。</p> <p>先ほどの山田委員からのご質問、デジタルコンテンツに関して、令和3年度の夏にプロポーザルで業者を決定し、アプリだけではなくデジタルサイネージや Wi-Fi の整備なども併せて行っている。総額3千万円になる。</p> <p>ただいずれにしても Wi-Fi の繋がりやすさや運用の面など改善を加え、今よりもっと多くの方々に利用していただけるように努めてまいりたい。</p>
<p>(山田委員)</p>	<p>承知した。</p>

② 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和7年度下半期）

<p>(議長) (事務局)</p>	<p>事務局に説明を指示 (資料2)「世界遺産の保全にかかる遺産影響評価」 (令和7年度下半期) 説明</p>
<p>(山田委員)</p>	<p>垣ノ島遺跡の中央付近の木にドローンが引っかかっていると思い、近づいたところドローンではなくアンテナが付けてあった。さらにそこから電源を取るために黒いケーブルが伸びて下にプラスチックのボックスが置いてあった。おそらく先ほどのVRの関係のものだと思われるが、影響なしでよいのか。</p>
<p>(事務局) 吉田主査</p>	<p>Wi-Fi の中継器である。先ほど述べたように Wi-Fi 環境が不良などところがあるため、改善するために我々管理者側の方で設置したものである。暫定的に設置しており、将来、環境が良くなれば外したいと思っているが、今はそういう措置をしているところである。</p>

(山田委員)	<p>仮設ということで承知した。景観的なことと言えば違和感とかそういったものだと考えられる。遺跡に行き、アスファルトの歩道があったとしても、見たときに区画がきちんとされたりバランスがとれていたり、違和感がなければ問題ないが、違和感があるとどうなのかと思うので、仮設でもできるだけカモフラージュ的なことをやっていただきたい。</p>
(事務局) 吉田主査	<p>今おっしゃったように現代物と縄文時代の景観は調和させたい。例えば園路などは公園として整備した動線として必要なもので、それらの区別をはっきりさせながら、少しでも現代と縄文が調和した景観に改善できるように考えていきたい。</p>
(議長)	<p>今の説明について、早急に正規なものを設置できるように検討していただきたい。仮設であっても、来場者が違和感を覚えるのであれば早めに設置をしていただければと思う。よろしく願います。</p> <p>風力発電の関係の説明があったが、これについては市の対応なのか。市の許可だけではできないものなのか確認したい。</p>
(事務局) 吉田主査	<p>まだ開発途中であるため、情報を公開できないが、検討しているのは山の尾根で、市の中でも環境部などを通じて私どもに照会があった。環境アセスメントと大規模な開発行為になるので、事前に必要な手続きを調べている中、世界遺産の構成資産が函館市にもあるということで私たちにも連絡がきた次第である。</p> <p>場所は見えない場所にはなるが、見えないということも文化財サイドとしてしっかり証明するため、遺産影響評価を行い、さらにレベル0になると考えられるが、その記録を残していくことをこれから行っていく予定である。</p>
(議長)	<p>なぜこの質問をしたかということ、市の方でも太陽光発電の関係で、国の方で関心を持って色々な規制を設けようとしている関係もある。最終的に地権者がいいとすれば業者が入るのはやむを得ないと思うが、行政できちんと管理をしていただき、縄文に関係あるだけでなく自然破壊の問題も含め、きちんと把握していただき行政で進めていただければと思う。よろしく願います。</p>

③ 史跡垣ノ島遺跡保存活用計画について

(議長) (事務局)	<p>事務局に説明を指示 (資料3)「史跡垣ノ島跡保存活用計画について」説明</p>
(谷口委員)	<p>昨年9月にも説明があったということだが、この保存活用計画は、法的根拠はあるものか、任意のものなのか。</p> <p>作成者は市教委だと思うが、前段で保存管理計画があり、それが10年くらい経ち、保存活用計画と名前が変わっているが関係性は何か、上位計画の改訂なのか、ほぼなり代わるものなのか教えていただきたい。最後に10年の計画で実施計画が5年ごと前期後期に区分しているが、5年ぐらいで検証するものなのか、見直しを行うものなのか。</p>
(事務局)	<p>保存活用計画について、任意なもので法的根拠はありません。</p>

藤田主事	<p>ただ文化庁から史跡について、このような保存活用計画を作るように、また今後、整備事業を行うこととなり、整備の事業計画などを立てる際には、この保存活用計画があることが前提とされているので、今回大船遺跡とあわせて垣ノ島遺跡も計画を策定した流れとなっている。</p> <p>策定の主旨に書かれている保存管理計画については、昔の名称が保存管理計画となっていたものが、保存活用計画に名称が変わったため内容としては大きな変更はありません。</p> <p>また計画の期間について 10 か年の実施計画期間とし前期と後期にわけてとあるが、目次のところの 12 章で経過観察があるとおりの 1 年ごとにそれぞれ 6 章から 10 章であげた課題や現状についてモニタリングを行い見直しや現状について振り返りを行う形となっている。実施計画にもあるが保存活用計画は基本的に 10 年間で更新するものとなっているがそのまま全く同じものになるのか改訂版として現状に即したものにしていくなかについては、今後 1 年ずつ 5 年のきりのよいところでそれぞれ見直しをしていくものとなっている。</p>
(谷口委員)	任意のもので、前のものとなり代わるものだと理解した。ありがとうございます。
(議長)	この計画に基づいて事業を進めていくとのことなのでご理解いただければと思う。

④ 令和 8 年度 事業計画

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料 4)「令和 8 年度 事業計画」説明
(議長)	世界遺産拠点施設について、函館誘致となっているが、いま南茅部に設置するという方向で動いているが、先ほど申し上げた 2 月 18 日の阿部千春氏の講演会の中でも説明されていたが、まだ正式にどういう形にするのか見えてはいないが、阿部氏が言われていたこと以外で委員会として把握していることがあれば説明していただきたい。
(事務局) 木村課長	先日の阿部氏の講演の中ではエコミュージアムといった構想が示されており大きな立派な施設一つということではなく地域の色々な資源と連携、連帯しながら南茅部地域・縄文文化についてより深く知っていただくためのものという構想の話があった。いま北海道の方ではどういった拠点施設を作っていくのか検討する中で、前段の南茅部地域に作ろうということの方向性を出された。委員会の中でもやはりエコミュージアム的なところは委員のみならず共有してイメージとしてはもたれていたのかなと思われる。おそらくそのあたりを下敷きにして、もっとより具体的な検討が令和 8 年度にかけてなされていくものだというふうに考えているが、今のところ北海道からこれに付随して方向性の方はまだいま時点ではいただけていないため、今後も情報収集を図っていきたいと考えている。

(議長)	ただいま説明いただいたが函館市教育委員会として何か道に提案するようなことは考えているのか。
(事務局) 木村課長	拠点の設置自体は地域の活力を高めるような施設になると考えているので、早期の実現をというところでは求めているところである。これから北海道の方で施設の具体的な内容を決めるにあたり市との協議もされていくかと思うので、その中で北海道の考えも伺いながら進めていきたいと考えている。
(議長)	先に縄文文化交流センターがあるから拠点施設も南茅部地域にということなので、地域の人が気軽に利用できる、そして地域外の人たちも興味を持って来ていただけるような施設になればいいという声があるので、そのことも含めてよろしくお願ひしたい。
(事務局) 木村課長	地域からそのようなお声をいただいているということも含めてよくお話をしていきたいと思う。
(議長)	よろしくお願ひする。

(2) その他

(事務局)	事務局から下記1点を説明。 1) 来年度の開催時期 2回(秋・来春)
(議長) (各委員)	それでは、最後に通しでご質問等ありますか。 (特になし)

5 閉会

(事務局)	閉会
-------	----

(了)